

葉山町教育委員会 2月定例会会議録

- 1 開会年月日 令和4年2月16日(水)
- 2 開会場所 保育園・教育総合センター 会議室
- 3 出席委員 教育長 稲垣一郎
教育長職務代理者 小峰みち子
委員 水沢 勉
委員 下位勇一
- 4 出席職員 教育部長 田丸良一
教育総務課長 虫賀和弘
学校教育課長兼教育研究所長 瀧名恵美子
生涯学習課長兼図書館長 中川禎久
学校教育課指導主事 大黒貴文、羽生智香
- 5 議長 教育長 稲垣一郎
- 6 書記 教育部長 田丸良一
- 7 開会 午前10時00分
- 8 閉会 午前11時40分
- 9 次第 日程第1 前回会議録について(葉山町教育委員会1月定例会会議録)
日程第2 教育長の報告事項について
日程第3 報告第1号 教育長の事務代理に係る報告(令和3年度葉山町教育予算(一般会計補正予算(第8号)))
日程第4 各課からの報告
① 教育総務課
・工事の進捗状況について
② 学校教育課
・令和3年度全国学力・学習状況調査結果
日程第5 その他

(開会宣言)

教 育 長) ただいまから葉山町教育委員会2月定例会を開会いたします。
本会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定による定足数に達しておりますので、有効に成立しております。
時刻は10時ちょうどでございます。
今日は傍聴人の方は、いらっしゃいません。
本日の日程は、次第のとおりでございます。会議次第についてのご異議はございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。

なお、会議録作成上、質疑の際は挙手をしていただき、こちらで委員の名前を指名した後、発言をしていただくことになります。

また、質疑をされるときは、何についての質疑か、明確にお願いをいたします。

(前回会議録について)

教育長) 日程第1「前回会議録について」を議題とします。

教育部長、説明をお願いいたします。

教育部長) それでは、1月定例会につきましてご報告いたします。

各委員の皆様には会議録を配付させていただいておりますので、内容につきましては省略させていただきます。

なお、1月定例会は教育長及び教育委員の出席が5名、開会午後2時、閉会午後3時33分でございます。

以上です。

教育長) ありがとうございました。ご意見、ご異議はございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。

以上、前回会議録については、原案のとおり承認されました。

(教育長の報告事項について)

教育長) 日程第2「教育長の報告事項について」を議題といたします。

お手元の教育長報告事項と題した別紙をご覧くださいと思います。教育長報告ですね。申し訳ございませんでした。

記載は4件でございますが、2月9日(水曜日)、3件目でございます、県・市町村教育委員会教育長会議については、臨時の県議会が緊急で開催されたため、書面会議に変更されましたので、送付されてきた書面で概要だけお知らせをさせていただければというふうに思います。

まず1つ目、令和4年度県の当初予算(案)の概要について、2つ目、新型コロナウイルス感染症への対応について、3つ目、県立高校改革の今後の予定について、4つ目、令和3年度懲戒処分の状況と不祥事防止の徹底について、5つ目、地方公務員等共済組合法の改正に伴う共済組合掛金等の取りまとめ納付について、6つ目、学校における体力向上に向けた取組について、7つ目、かながわ特別支援教育推進指針の策定について、最後に8番目、障害者雇用についてというところの8項目が概要説明されました。

少しその中のところで必要な部分だけお知らせをしておきます。1つ目の県の

ほうの当初予算の関係ですけれども、市町村に関わる、葉山町に関わるころにつきましては、小学校高学年に教科担任制を導入いたしますというところが1つ。それから、小学校3年生までの35人以下の学級を実現しますよというところが2つ目。その次は、実はどちらかというとな葉山にとって一番ありがたい話かもしれませんが、市町村学校の対応に特化したスクールロイヤーの設置を来年度から行っていただけるということになる内容です。これはなかなか町としてはですね、どうしようかというふうに懸案だったところでございますので、非常にありがたいと思いますね。4つ目、スクールカウンセラーを市町村立中学校全校に継続配置をしますというところの部分が、町村にとって非常に予算レベルでは大きな話でございました。

2点目のコロナ対応につきましては、町もそうですけれども、県全体として、教育活動は継続しながら、保健所や校医に判断を仰ぎながらですけれども、臨機応変に、学級、学年、学校の閉鎖を行うこととし、臨時休業中はオンライン授業を活用し、学びの保障を行うことということが明記されております。さらにはですね、不登校の支援にも併せてオンライン、PCの活用を検討してくださいというお話でございます。

3点目、県立高校改革の現状と今後の予定についてのところでは、今年の秋には次期の期別計画である3期計画を策定及び公表するというふうに示されております。したがって、県立高校のほうのところでは、いよいよもって高校改革第3期という一番最後のところが秋のところでは策定、公表されるんだということになると思います。

4項目め、令和3年度懲戒処分状況と不祥事防止の徹底についてですけれども、懲戒処分を実施した8件、これ12月の時点のお話でございますが、そのうち7件がわいせつ事案であって、県民の信頼を著しく損なっているということ、市町村も含めてですが、なお一層の不祥事防止に取り組んでもらいたいということのお話です。

5つ目、地方公務員等共済組合法の改正、これはですね、令和4年10月1日から市町村が独自に採用している短期間勤務職員、会計年度任用職員等ですけれども、この方々も組合員になりますよというところで法改正があったので、事務レベルでお知らせをしましたというところでございます。

6項目め、学校における体力向上に向けた取組について。これについては各小学校・中学校も含めて、全県のところ、全国も含めてですが、体力のスポーツテストをやっていますけれども、この関係についての結果でございます。残念ながらですね、葉山のほうは、見てみますと、神奈川県も全国レベルから見るとそうなんです、その中でも葉山はどうもこのデータあまりよくない、芳しくないですね。何でかなということ、詳細見てみたところですね、実はコロナ関係のとこ

ろです、各学校が体力・運動能力向上の目標設定と、それから体育の授業以外での取組ということの一つの目標値に掲げてないようなんです。これまではしてたと思うんですけども、今回それがされていないところがあって、回答の中でパーセンテージが低くなっているということがありました。これについてはですね、またちょっと学校とも相談をさせていただいて、来年のところですね、体力のところの部分に一体どうなのかというところ、目標設定も明確にさせていただきながら進めてまいればというふうに思っております。恐らく、葉山の子たちですから、それほど体力的に劣っているとはあまり思えないので、やはりこれちょっとアンケート系のところの回答レベルの問題じゃないかなというふうに思っていますので、また来年以降のところを取組をさせていただきたいと思います。

7項目め、かながわ特別支援教育推進指針の策定。これについてはですね、県と市町村の役割分担及び連携が明確に表記がされたというところは非常に大きなところなんです。项目的には、今までもしていただいているんですが、各学びの場の指導や支援の充実を明確に行いますという項目、それから、特別支援学校のセンター的機能の強化を行いますという。さらに、交流及び郷土学習の充実をしますと。さらに、就学相談、支援の充実も行っていきますというところがございます。葉山においてはですね、これまでも県のところの特に特別支援学校のセンター的機能については、非常にありがたく指導もしていただいているところがありますので、今後もですね、より連携を図っていただけるということで、ありがたいと思っています。さらに申し上げますと、こういうことがありましたので、来年度になります、葉山の町としてもですね、ひとつどのような形で支援教育を行っていくかというところの指針を策定するつもりでおりますので、またそこも一言だけ申し添えておきたいと思います。

8項目め、障害者雇用についてですが、これはようやくですね、県としては本当に恥ずかしい話だったわけですが、かつての法定雇用率のところの報告に虚偽があったということがありまして、本当に知事含めて、教育委員会も含めてですが、全体のところで、もうこれは頭を下げるしかないということで、何とかですね、法定雇用率を上げようというところの努力を、県含めて、町村もそうですけども、してきたところなんです。ようやく12月時点でですね、法定雇用率、もともと2.5%ということになってますけれども、2.52%にようやくになりました。こういう中でですね、これからも障害者雇用をしっかりとやらせていただくというところの県の表明ということでお考えいただければと思います。直接本来は県の教育長のほうからですね、こういう形のところが語られて、さらにこれについて、県全体の町村としても向上していくというところの会でございますが、残念ながら書面になりましたので、書面のところで葉山町の教育委員会として回答をさせていただければと思っております。

これにつきましては、以上でございます。

続いて、2月9日（水曜日）、ちょっと順番変わりますが、小・中一貫教育の推進会議についてお知らせをいたしたいと思います。校長会議に先立ちましてこの会議をさせていただいておりますので、これを先にお話をしたいと思います。

まずですね、今回は各校長先生から、各学校で、小・中学校の中でですね、特に職員に対して小中一貫教育についてどんな形での周知をされていますか、その浸透度合いはいかがですかというところを各校長先生からお話をいただくということをメインにさせていただきました。一旦こちらからお話をさせていただきますが、後ほど教育総務課長の虫賀課長のほうからも補足があればお願いできればというふうに思います。

どうも話を聞いてるとですね、ようやく、ようやく教員にも小中一貫校の現実感というんですかね、少し、本当にやるんだという感覚が伝わり始めた、分かり始めたというところの部分ではあるというふうに思っております。ただしですね、現実としてのイメージ、つまりですね、カリキュラムの実際、それからもっと言うと、義務教育の9年間の継続的な教育を行うということが、実は小中一貫校をつくっていく目的であって、小中一貫校をやるんだということなのか、コミュニティスクールを動かすんだということが目的ではありませんので、ここについてのところ、簡単に言うと、9年間継続教育をしていくためにコミスクもやります、小中一貫教育も行いますというところ、ここがですね、どうもまだいまひとつ職員の中には明確に落ちてないところもおありになるようですので、この辺が校長先生たちの、ある意味ではもっと学校の中に浸透させていくためにどうしていけばいいんだろうかというお悩みだったり、逆に言うと、ジレンマもおありになるんだというところが伝わってきた部分があります。各学校、個別個別に校長先生中心に様々やっただけでございますけれども、いわゆる校務分掌の改変の関係ですとか、いろんなことも含めてですね、また今後令和4年度どこまでいくのかというところについても、この校長先生がお話しされた後に少しお話をさせていただきました。

例えばですけれども、前から申し上げている総合的な学習の時間のところで、一つ、葉山というところの特徴を出して、はやま科という教科レベルのものをつくっていくかということもですね、教育委員会がつくってくれるのかという感覚だとか、それから、教育委員会がつくったものはやっぱり自分たちは適してないんじゃないかという感覚だとか、どうもまだおありになるようなんですが、こちらからお話ししたのは、前に申し上げたんですけど、フォーマットはこちらでつくりますが、カリキュラムの一つ一つは各学校で、当然ながら、学校の先生たちが議論をしていただきながらお作りいただきたいというところの部分。さらに、できれば民間の、あるいは有識者のアドバイザーボードの方々を教育委員

会としてはカリキュラムに絡んでいただいて、先生たちとともにですね、実際の会議をつくっていただきたいということを一応申し上げたところです。

働き方改革の視点から考えてもですね、教育内容、つまりこのカリキュラムをつくっていく中で、学校が一番下手な部分ですけども、どんどんビルド、ビルド、ビルドで、いろんなもの積み上げて忙しくしちゃうんですね。そうではなくて、少なくとも9年間の継続教育をしていく中で、いわゆる、このところよく使う言葉ですが、アンラーニング、教育的なところでの業務棄却をしていただかないと、恐らく先生たちもそうでしょうし、もっと言うと、生徒たちも窮屈になってしまうと思いますので、その辺のところ、来年度になります、単なる言葉でしかなかった小中一貫校というもの、これが、あるいはその中で実際動かすはやま科というものがどんな形でつくっていくのかということ、これについては来年から作り出しを本当にするんだという年になるんだということ、私のほうからも各校長に申し上げたところです。

またその後ですね、小中一貫校を実現させるために今後の組織論について、先ほど申したとおり、校務分掌をどうしていくのかということも含めてですが、そういうことの提案説明と、大局的に令和7年度の南郷・長柄をどのような形で開設していくのか、さらに言うならば、葉中中心のところの3小も含めてのところをどうしていくのかという大局的なところのスケジュール感、これについては教育総務課のほうからご説明をいただきましてですね、その後、また今後様々な会議の中で議論をしていただいて、最終的にフィックスをしたいということもお伝えしたところです。

続いて、校長会議についてお知らせをしておきます。

1つ目は、先ほどの小中一貫校の絡みでもあるのですが、カリキュラムマネジメントと組織マネジメントというところのお話をさせていただいたところです。小学校で、特に児童の学習の意欲をそがない教育の継続をしてほしいということをお話ししました。これは例えばですが、これまでの単元別の小テストや提出物の積み上げで評価方法を、評価をしているもの、これを見直してほしい。つまり、教員が思っているパッケージに児童をはめ込む教育はもう捨ててほしいというところの部分。先ほども申したアンラーニングの考え方を教員が持っていたかないと、これから先の教育についていけなくなりますよ。そういう中でいうところのカリキュラムマネジメントを校長にはぜひしていただきたいというところのお話です。

例えば行事もそうなんですけれども、これまでやってきたものが慣習化しているものをダウンサイジングする、あるいは本当に棄却してしまう、アンラーニングしてしまう、アンラーニングしてしまうことも含めて考えてくださいということを申し上げました。

葉山ではもうやっていないというお話を伺ったので、ある意味よかったなと思ったんですが、少し例え話でお話ししたのは、神戸の先生が始めたというふうに伺っていますけども、横浜地区でもそうですし、葉山も相当のところをやっていたと伺っていますが、小学校の4年生のときに2分の1成人式というのを相当やっていた時期があります。これ実は、神戸の先生が始めたのは、目的としては小学校の4年生という、非常にある意味で、目標も含めて、児童のところの少し中だるみが出るところを、そうでない形にしていくために、どんな形に、そこにどうくさびを打とうかなというところから発想して始められたというのが本来のところでした。ところが、小学校の中で行われた…どんどん広まっていった結果として、どうなってしまったかというのですね、結果、子どもたちが主役ではなく、保護者を呼び、保護者が、そこで来て、お父さん、お母さん、育ててくれてありがとうシリーズになってしまったと。子どもたちには教員のほうが感謝の言葉を必ず書かせて、読ませて、感動させるという、非常にどちらかという演出めいたものが相当増えてしまったというところの行事がありました。これは、やはり一番いけないのは、本来の意味合いと違うことにすり替わっていったということですね。

そんな中で、最近これをどこの小学校もやめていっている理由は、ある意味当たり前なんですけど、本来の趣旨と変わってきてしまったねというところ。さらに言うならば、どの家庭でも保護者という概念の、子どもを世話している家庭であるのかというところに小学校として気がついたということもあるんでしょうね。ですので、そんな形のところを含めて、これについては廃止をしているところが増えてきています。これは、学校としてはそこに気がついたこと、すごくいいと思っていますが、これから先に学校9か年で継続して考えていく際、そのときにはもしかすると、今、小学校の4校でやっている行事、当たり前のように毎年やっている行事の見直しというものも当然必要なものだというふうに思っていますし、何のためにやっているのというところについても、明確にもう一度レールの引き直し、先ほど申したとおり、ダウンサイジングが必要かもしれません。場合によってはやめるという決断も必要かもしれませんので、その辺のところも考えてくださいねというところを話をしたところです。

今現在はですね、残念ながら、まだ9か年を見通した具体的なカリキュラムが存在しているわけではありません。これから各校でどんな形でカリキュラムをつくっていくのか、そしてまた機能的に学校を動かすために、どんな組織的なマネジメントをしていく必要があるのかというところも、これも喫緊の課題ですよというところでお話をしたところです。

2つ目にお話ししたのは、今話した組織的なマネジメントの具体の話をしていただきました。校内の校務分掌と言われるところのものをグループという形の

ところに変更していく。さらに、企画調整会議の学校における位置というもの、ここについてもしっかりと明確にさせていただきたいというお話をしました。当たり前の話なのですが、校長が学校の運営方針を議論する場が企画調整会議であります。その場が校長に対して具申をしていくことは当然必要だと思っておりますが、最終的には学校長が決定したこと、企画会議で議論をしたこと、もっと言うならば、企画会議に各職員が議案を上げたり、あるいは意見を上げるということをしたものが企画調整会議で諮られて、そこをしっかりと校長が判断をして職員会議で報告をする。簡単に言うと確認をするというところの組織論というものを明確に振り分けていっていただきたいということを申し上げたところです。

さらにですね、今年私が4月に、今年度のところで赴任して一番最初に、学校の全貌が分かるまで、それは学校要覧でございますので、学校要覧を全て見せていただきました。その中でですね、一つ、そろそろやめようかなということを考えてくださいねと申し上げたのが、実は要覧を見るとですね、「指導」という言葉がいっぱいちりばめられています。とにかく、何でもかんでも「指導」って書いてあります。そろそろ指導をやめませんかという話を差し上げました。支援にしましょうよと。私たちが育ってきた時代とかは、当然教員になった頃は生徒指導という言い方が当たり前でしたけども、今は生徒指導ではなくて、生徒を支援する立場に教員がなっていく。そろそろそういう指導という考え方、これやめていきましょうと。学校に赴任した新採用の先生方も学校の中で指導、指導という言葉がどンドン使われていくことによって、大いなる勘違いをする可能性が非常に多いです。指導と言うとやはり言葉どおりです。簡単に言うと、教え導かなきゃならないんですから、教員のほうが先頭に立って何かをさせるという、そういう意味です。そうではない、支援。簡単に言うと、サポートをしていく、ファシリテートをする、当然ケアもするという考え方にやはりなっていく。言葉尻って…言葉って結局は非常にある意味で大きなものなので、学校の中での使い方を変えていくことで先生たちの意識も相当変わっていくと思っておりますので、そこについては子どもたちに伴走していく、伴走していくということ、これをこういうふうに意識的に変えていきたいと思いますということをぜひお願いしたいというところでございます。

学校の中でですね、これについてはすぐにどうという話ではなくて、そうしてもらえませんか、考えませんかというお話を差し上げたので、学校の中でしっかりと議論をしていただいて、できるだけ早く全員の先生たちでですね、子どもたちに関わる意識というのを少しずつ変えていければなというふうに思っているところです。

併せて、学校要覧のお話をしましたので、学校要覧の文言も整理しましょう、カテゴリーの整理をしましょうというところも申し上げました。

それから続いて、3月28日（月曜日）、18時から20時まで、福祉文化会館で、今日もまたお話あると思いますが、教育委員会としてはこういう教育フォーラムやシンポジウムというのをこれまでやったことあるんですかね。ありますか。初めてですか。教育委員会が主催で、葉山の町全体に対して教育のものを考えましょうというイベントは初めてですかね。そういうのをやりましょうということになりましたので、これについての開催のお知らせを校長先生にも差し上げたところです。葉山の教育をね、今後どうしていくのかということ、それから、先ほどから話をしてる、9か年を見通した教育をどうしていきたいのかということも含めてですね、基調講演をお願いをして、基調講演については教育研究家の妹尾昌俊さんをお願いをします。その後、町長を交えて、校長先生、それから現役の教員とともに、少ししっかりとシンポジウムの中で議論をしていければというふうに考えてます。

当日は、コロナの関係でまだちょっとどうなるか分かりませんが、福祉文化会館にも人を呼んでしっかりとシンポジウムができればいいと思っておりますし、それだけではなくて、開催時間的にも様々な問題がありますので、オンラインでご家庭からも見ていただけるような形の形式を取らせていただければと思います。詳細はですね、今後また広報を町全体にも差し上げていくという形になるかと思えます。

続いて、人事とコロナ関係について連絡事項を差し上げました。先ほども申したとおり、オミクロン株の猛威はですね、どうもデルタ株とやっぱり全然広がり方が違ってですね、このところ、本当に学校教育課も朝から晩までずっと電話の…電話とそれから学校どうしようかというところの対応に追われています。ご承知だと思いますが、各校もですね、クラス閉鎖、学年閉鎖、場合によっては学校も閉鎖するという状況まで来ました。とにかく、止めざるを得ない状況にまで葉山も来たんだというところになっています。神奈川県全体の中でも相当な罹患状況がありますが、東京、神奈川、少しピークアウトしてきたかなという状況にありまして、昨日ぐらいからですかね、指導主事も少しのんびりした感じになるんでしょうかね。ね。まだ駄目ですか。ご苦労さまでございます。というところでございますので、まだ少しいろんなことがあるというところですね。

人事の話は、どちらかという今後のスケジュール含めてのお話を差し上げたところです。

それから、コミスクの話ですが、次はですね。南郷・長柄については令和4年度、来年度からですけれども、合同の学校運営協議会を開催する、つまり、2つ一緒になっていくための学校運営協議会であり、コミュニティスクールであるということになっていくんですけれども、先ほど申した、残った葉山中学校プラス3小についてのところの全ての学校で、令和の5年度、そこのところからコミュ

ニティスクールの導入を、ぜひ学校として導入検討をしてもらいたいというところのお願いを差し上げたところです。

長柄と南郷はコミュニティスクールが動いているわけですが、ほかのところは相変わらず学校の評議員会がやっているという状況なので、学校評議員会を今やっている必要があるのかというと、そうでもないと思いますので、コミスクに順番に移行していくと。ただ、学校にとって一番恐らくコミスクをやっていく中で人選が大変だと思いますが、コーディネーターをね、どなたにやっていただくかというところ、これは学校教育も、それから生涯学習のところの部分も含めて、どう推薦をしていくのか、人選をこちらでも検討せざるを得ないところがあるので、そこも含めて検討をお願いしたというところでございます。

校長会議としては私のほうから最後に、教育のDXについて話をさせていただきました。これ町でも話をしても、相変わらず、DXの意味というのがどうも違う意味で捉えられていることが多々ありましたので、これについても校長先生たちに理解してもらうために話をしました。

何を話したかということ、デジタルトランスフォーメーションというものは、今まであるものを電子データ化したり、PCで処理したりすることを指しているわけではないということも申し上げました。簡単に言うと、電子化をすることが目的ではないんですね。電子化をすることでこれまでのありようを、効果的に、効率的にやり方を変えていくということを当然しなきゃならないわけですが、学校業務全体を見渡していただいて、その中で何かを変えていくときに電子化をしていったほうがいいものは積極的に取り組んでいきたいと思いますというのがDXの考え方ですので、ここは、単にですね、AI化というか、オートメーション化、電子化、PC化、そんなことをするとですね、どうなるかということ、恐らく、私の経験上、ちょうど県に、高校の教員から県に初めて行った40歳の頃に、ちょうど県がですね、PCを全員に配るというのを始めた時期です。どうなったかというと、業務がでたらめに増えました。上の人間にとってみると、出てくるものはこれまでと違ってきれいなものが出てくるんですけど、オーダーするとすごくきれいなものが出てきます。そうすると、上司は、きれいなものができるようになったね、簡単なんだろうっておっしゃるんですよ。なので、オーダーどんどん増えてきます。でも、作っている側は非常に大変になります。仕事がどんどん増えていっちゃうんですね。

ですから、そういうこと含めて、これ学校の中でも同じことが電子化の中で起きているということがありますし、教育をしていく中でも、何でもかんでも、今、GIGAの関係で教室に一人一人入っているパソコンで、じゃあ、何でもかんでもそれで電子化でやればいいじゃないという話になっていくと、今度は子どもたちはどうするかということ、楽しいこともあるので、たくさんそこに関わるように

なります。パソコン一生懸命やるようになります。ただ、それが、これもまた目的とツールをはき違えるところの部分になりますが、結果的にどうなるかという、作業は一生懸命やるようになる。作業能力上がると思いますが、残念ながら、本線の教育でそこで何を教えていくべきなのかのところから違う方向に行くので、恐らく学力的に伸び目は一定のところまで少し上がった状態になると思いますが、そこからもう伸びなくなってしまうということが起きると思いますので、ここも含めて教育のDXというところ、これについてはですね、しっかりと考えてもらわないといけないよというお話も差し上げています。当然、探究型の授業ですとか個別進度学習ですとか、自由進度学習ですとか、こういうことをどんなふうに本当に勉強しながら教員が進めていくかということは非常に重要な話です。

これ例えばの話をしましたが、葉山ではどこの小学校でもロイロノートというアプリケーションを使っています。ご承知かもしれませんが、タイル、四角いタイルを使いながら、自分の考え方をそこに記述をして、それを提出をしたり、教室の中のみinnで共有をしたりしていく。そしてさらに言うと、順序立てたロジックを作らせながら、自分自身がどんな思考で何を考えているかを視覚化していったりする、そういうアプリケーションです。非常に、どちらかというロイロノートは、小学校、中学校、高校、場合によっては大学でも使えるんじゃないかなという、そういうアプリケーションです。

仮にですね、小学校の低学年で何かの感想を提出させよう、ロイロを使って提出させようというところがあったとします。これまではパソコンありませんでしたし、ロイロなかったので、多分ノートかあるいは原稿用紙、紙に書いて提出をしてねということ、これは仕方がなく先生も統一的な方法で統一的に提出をさせるというところがあったということです。しかし、これからは、提出もロイロノートを使って提出ということが出来ますので、多分提出方法、これから申し上げる3つぐらいで分けられます。

1つ目、これまでどおり鉛筆なり、ボールペンでもいいんですが、紙に書いて、それをパソコンで画像に取り込んだ形で、スキャンとか写真にした上で、ロイロでそのまま提出をしてしまう。

2つ目、パソコン上のところで、タッチペン等で書いたもの、それをそのまま電子化してしまったものを提出する。

3つ目、キーボードで普通に打ち込んだもの、これを提出をする。となると、提出方法もこれまでと違ってバリエーションができます。

これ、どれで提出すればいいのということについては、子どもたちが選択すればいいと思っています。鉛筆で書くこと、書くこと、何か紙に書くことが子どもたちの能力を伸ばさせてきた。つまり、伸ばしてきたというふうに私たちの世代は思い込んでいます。思い込んでいます。思い込んでるんですが、本当にそうな

のかどうかは、これから先のところを少し見てみないと分からないというところがあります。

さらに言うと、原稿用紙のマスの中にきれいに書きなさいという指導ができない子たちが現実的にもう存在しているということが今あります。そうすると、その子たちはうまくできないので、常に、簡単に言うと、先ほどのように指導されるんですね。ここから出ちや駄目でしょって言われ、もっときれいに書きなさいと言われ、ただそれで本当に能力的なところ、それは特性というものでしょうけれども、できないという子たちにそれをさせても、恐らくは嫌になっていくことを助長しただけだということが多分あるわけです。

先ほど申したとおり、3つの方法のどれでも構わないよと言ったときに、彼らが自分で選択をした方法論で提出をするならば、それはそのマイナス要因は少しでも減らせる、削っていけるという状況がありますよというところですね。例えばこういうことも一つの教材のところを物を考えていくときのDXになるんですよというところを、少しお話を差し上げました。

だから、最初のところにお話ししたとおり、やる気をそいでしまう学習を強要することはもうやめましょうということ。これは例でしかありませんから、全てに対してこういうことを考えろということではないですけども、いろんなことを考えてくださいねという意味でお話を申し上げました。

校長会は、会議については以上でございます。

最後に、お配りもしてと思いますが、明日から予算の総括質疑がスタートをし、予算委員会を経て、3月になってですね、予算のところの決定があり、さらに一般質問があつて、2月の定例議会が予定では3月17日までですかね、行われていく形になると思います。議会での議論、それから中心的な話題につきましては、3月の定例会でまたお知らせをする形になろうかと思いますが、恐らく現在のところ考えている部分でいくと、教育の部分ではやはり大きな一つの物の考え方として、先ほどからお話をしている小中一貫校は本当にどうするの、その中でのコミュニティスクールどうするのという話の一つ、多分話題としてはおありになるでしょう。さらに、予算レベルのところと、それからもう一つ事業としては中学校の完全給食提供をどうするのという話が当然出てくるというふうに思っています。その2つを中心として教育予算非常に大きいですから、その中の一つ一つについての質問等が出てくるということもあるんじゃないかなというふうに思っています。

長くなりました。以上で私のほうから、教育長からの報告を終わらせていただきます。

では、ご質疑があれば、どうぞおっしゃっていただければと思います。小峰委員、お願いします。

小峰委員) 校長会で話題になったというか、議題に上げられていた新型コロナウイルス感染症関連について、教育長からも児童・生徒への感染が今までにないくらい広がっているというお話がありましたし、私たちも実感しているところなんですが、これに関して、3点になると思いますが、伺いたいと思います。

まず1つは、葉山町の小・中学校における児童・生徒の罹患状況というか、町のホームページにて記者発表されたようなことについて、私が全部把握しているかというところじゃないので、休校になったり、学級閉鎖になったりしたことで、今、差し支えない範囲でどの程度そういう状況にあったか、あるいは今あるのかということ伺いたいのがまず1点ですね。

それから2点目は、それに伴って、やはり学校生活、あるいは行事に大きな影響があるんだと思うんですけども、それに関わるような、影響されたようなところ、それから学校行事の変更、あるいは休業中の児童・生徒は多分オンラインの授業などを受けていたと思うんですけども、それが結果的にうまくいっているのかどうか。それについていける子とついていけない子が出てきたりはしていないのかどうか、短い期間かもしれませんが、そんなところの感覚も伺えたらと思います。

それから、3点目はですね、葉山町のホームページで見ると、子ども…5歳から11歳のワクチン接種について、国から令和4年の3月頃までには接種するよという通知があったということが書かれていました。葉山町ではまだ実施の方法などについては詳細未定だということですが、先日私が見たニュースでは、東京の渋谷区では、学校を巡回してワクチン接種を実施するということが報道されていました。

私が伺いたいのは、こんなふう子どもたちへのワクチン接種に教育委員会が関わるような状況があるのかどうかということです。

以上、3点伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

教育長) では、最初の2件について学校教育課のほうからお答えいいですか。学校教育課長、お願いします。

学校教育課長) コロナの現在小・中学校の感染状況ということで、差し支えない範囲でお答えさせていただきます。

まず、今年度に入り、小・中学校の児童・生徒の陽性者数は、現在137名です。教職員につきましては17名になっています。また、濃厚接触者数については、児童・生徒で合計246名、教職員が8名という状況でございます。

コロナ関連の学校の休業措置に関わる件数で申し上げますと、学級閉鎖が6件、学年閉鎖が6件、学校閉鎖が2校、それに伴った繰上げ下校が8件になってございます。

学校の行事の部分ですけれども、まず、中学校の修学旅行を2月の下旬に予定

しておりましたが蔓延防止等の重点措置を受け、中止とさせていただきます。

特に中学校3年生の生徒さんは、入学してからことごとく行事という行事が潰れてしまっている学年となります。保護者の皆さんも何かしら代替行事を行わせてあげたいという願いもあって、県内や県内の本当に近いところで校外行事を両校予定をしております。

小学校についても、秋口や2月・3月に予定していた行事等もなかなかできるかどうか分からない状況でございますが、今現在、様子を見ながら、まん延防止等措置が終わった後に可能であれば校外行事を実施する方向で計画をしている状況でございます。

教 育 長) じゃあ、オンラインの状況を。

学校教育課長) 休業中のオンラインについては、小学校・中学校ともに、迷いなくオンライン授業に切り替えることができている状況です。どこの学校も休業等に入った場合オンライン授業が行われている状況です。ただ、子どもたちがオンライン指導でどれぐらい理解してるとか、困ったことがないかというところは正直把握できてはおりません。後にまたそういった子どもたちの声や先生方の声はこちらも集約しなきゃいけないかなというふうには思っております。

教 育 長) 3点目の、5歳から11歳のワクチン関係ですけれども、これは12歳以上のときもそうだったんですが、町部局のほうのところの福祉のほうを担当しておりますので、渋谷区が行ったような、教育委員会が率先して学校を回るだとか、そういうことについては多分葉山の中では行っていくことはないと思います。なぜかということ、当然個人情報の絡みがあり、打つ、打たないの関係のところも、保護者さんの意向もおありになるのと、それから、学校の中のところで、特に小さいお子さんの中のところで、打った、打たないというところの差異が出てきて、それを言動にしてしまうということ、非常に大きな問題があると思いますので。接種券が行って、打つ、打たないについてのところも、これは保護者のほうにお任せをする形でこれまでも動いていますので、どちらかということ、あえて学校を回ってというところの英断をされた東京の区は特に心配だなというところもありますけれども、恐らく町として教育委員会が率先して動くことは、そうしろと言われても私としてはそれは問題があるので、残念ながらそういう形での施策についてはうんと言えませんねというお話を差し上げることになるんじゃないかなという気がちょっとしているところです。

小 峰 委 員) 今お答えいただいたことの1つは、そのオンライン授業でやっぱり私が一番気になるのは、学校はいろいろ準備がされているので、スムーズにオンライン授業を出すことはできると思うんです。ただ受け手の子どもの中には苦手だという子もいると思います。今、課長からも受け手側の子どもについてはさらに調査等必要だということがありましたので、ぜひその辺の検証も含めてお願いしたいと思

います。

それから教育長のお答えいただいた件ですが…私の言葉が足りなかったんですけども、渋谷区がやったのは、土・日の学校に巡回して行って、そこを会場にしてワクチン接種を行うことで親が連れて行きやすい環境を作るということでした。つまり、渋谷区として学校に行って在籍児童に接種するための巡回ではないので、誰が打ったとか、打たないとか個人情報が出てしまうようなかわり方ではないと思います。いわゆる学校の施設を使うということで、やはり教育委員会のいろいろと関わりが出てきているのかなと考えての質問です。そういうような、学校の施設を利用する等のことで葉山でも教育委員会の方も関わるような動きがあるのかなということで伺いました。すみません、言葉足らずだったので、誤解を生むような質問になってしまって申し訳ありませんでした。ありがとうございました。

教 育 長) 恐らく、学校会場という話、個別小学校・中学校を会場にするという話は今のところ全く出ていない話ですね。

教 育 部 長) ないと思います。医師会の限られた人数で、福祉文化会館へお越しいただいているのと、あと個別の医療機関でも今対応してきているので、それ以上に会場を広げてというのは、ちょっと物理的に難しい状況ではないかなというふうには思います。

小 峰 委 員) ありがとうございました。

教 育 長) ほかに何かございますでしょうか。水沢委員、お願いいたします。

水 沢 委 員) 先ほどのお話で、僕の知識の中にはない問題ですが、4年生のときに2分の1成人式をするのが形骸化したということですね。今後、9年間の小・中一貫だと、どこかの時点で何か9年間の、今までとこれからを何か振り返るといふか、それも生徒主体で何かするようなプログラムというものを葉山独自のものとして提案することを考えてもいいのかなと思います。

教育長のお言葉にあったように、アンラーニングということであれば、過去3年間、小学生で学んだ、例えば4年生のときでもいいし、過去4年間学んで、5年生のときに、これからあと4年あるわけだから、5年生でもいいですが。何かそういうタイミングで、教員も含めて、今まで学んだことをアンラーニングして、将来に向けてあるべきまたラーニングのあり方を考える、そういうプログラムをこの9年間の中にどこかうまく設定しておく、それを目指して最初の三、四年間きちんと認識したうえで、これからも展望を自分の意志で切り開く。ずるずるとした9年間にならないようにするためには、何かそういう工夫はできないだろうかというふうに思いながらお話を聞いていました。質問ではありません。ありがとうございました。

教 育 長) 学校教育課、いかがですか。何かお話を伺って、そういうようなことというの

も。今現在すべきということではないですけども、ご提案としてはしっかりと受け止めてください。

学校教育課長) まさにご指摘いただいたところ、本当にこれからの大事な視点だと思います。特にキャリア教育という考え方で、それをどういうふうに各学校のカリキュラムに落とし込んでいくのかがとても大事な視点になると思います。委員のおっしゃるように、それが形骸化せずに、子どもたちから、どのように自分のキャリアを深めていくのかという視点も入れながらカリキュラムの中に落とし込んでいく作業をまさにこれから考えていきたいと思います。ありがとうございました。

教 育 長) 教育総務として何かありますか、想定としては。

教育総務課長) 小中一貫の検討会議の中では、やはりエビデンスベースでの学校教育というのを一つのキーワードといいますか、そういうふうに取り上げてますので、そういう部分では、教育長から指摘されているのは、何らかのその定点観測といいますか、そういった節目節目でのエビデンスベースの、学校教育ができているかということを確認していくような仕組みなりを今後検討していくべきだというふうには承知しています。ただ、なかなかこれまで例のないことなので、葉山としても、全国的にも今、各自治体で試行錯誤は繰り返されているというところではないかなというふうに思います。

教 育 長) 少し補足をしておくと、これまで、先ほど申した、これもDXの一つの部分ですが、紙媒体で小学校でいろんな作品を生徒に書かせたり、提出をさせたりということをしてきて、恐らく学年が終わるとき、もっと言うならば、学期が終わるときに本人たちに返しているということが当たり前の形で起きていると思うんですが、デジタル化するとですね、それをずっと、簡単に言うと、例えば私が小学生とすると、作ったものをみんなデータ化して置いておけるということが非常に楽にできるようになります。そのとき何をしてきたのか、自分が何をやったのかということについてのところというのを、しっかりと蓄積をデータの的にしていこうというのがポートフォリオという考え方ですけども、もともとは紙でもしっかりポートフォリオ作りましょうねという話ですが、現実的にほとんど難しい話でしたので、DXがしっかり進んでいくと、恐らく電子的なポートフォリオ化はしっかり、これは小学校・中学校・高校になっても多分それができていくというふうに多分なっていくと思います。

国のほうのデジタル庁が教育のところのDXでそれを何とかしたいというふうに言い出していますので、そういうことも含めて動くんだと思いますが、そういうことを含めた中で、9か年の中で、水沢委員がおっしゃるとおりで、9か年だらだらと進むわけにはまいりませんので、恐らくはその中の期をやっぱり決めていかなければならない。今は1年生から6年生、中学校の1年生から3年生ですが、恐らく9か年の中のところでのサイクルというか、どこかのとこ

ろの期を2つぐらい切っていくんだと思いますね。その中のところで、おっしゃられたような形で、自分たちを一回振り返ってみて、新しいところに進んでいくというところは、これは教育効果としては当たり前のようにしていかなければならないものだと思います。そのときに、それをイベント的に、行事的に行う必要性が子どもたちにとってより効果的であるならば、そういう設定も必要でしょう。ただ、イベントである必要があるのかどうかというところは、学校の中でのカリキュラムの中でまたしっかりと議論をしていくべきだろうなどというふうに個人的には思っておりますので、一応補足的に申し上げました。

ほかに何かございますでしょうか。下位委員、お願いいたします。

下位委員) 先ほど校長会議のご共有をいただいたときに、教育長のお言葉の中に、パッケージにはめ込む教育をしている、というお話あったと思うんですけど、これは主体的・対話的で深い学びの実現というのとリンクするようなお話ですか。すなわち、今までは学校の先生が黒板の前に立って、板書をしながら子どもに教えていくという教育が主体だったと思いますけども、これがだんだん、最近中学校とかでもよく拝見させていただく、子どもたちが自分たちで学び合いをしていくというような方向に、今後小学校もなっていくというような認識でよろしいのでしょうか。

教育長) 一応こちらのほうから答えて、必要があれば学校教育課のほうから補足をしてください。

基本的にはまさしく下位委員がおっしゃったとおりで思っています。いわゆる、ティーチングをするという概念から、子どもたちが主体で何を学ぶのかというところの物の考え方を、教員のほうが、やはり先ほど申したとおりで、うまくサポートしてあげるという形の部分に学習の形態を変えていくという大きな物の考え方が必要だなというふうに思っています。後ほど報告の中でまた学状の報告が出てきますので、そここのところのデータを見ていただくと、葉山の子たちがどう思っているかって少し分かったりするところもありますので、またそここのところ何かあればご質問頂ければなというふうに思っています。質問については全くそのとおりでというふうに思います。

学校教育課、何かございますか。大丈夫ですか。

ほかに何かございますでしょうか。よろしいですか。ご質疑がなければ、これにて質疑を終結をさせていただきます。

以上、教育長の報告事項についてはこれをもって終了といたします。

(報告第1号)

教育長) 日程第3、報告第1号「教育長の事務代理に係る報告について」を議題とさせていただきます。

これについては、教育部長のほうからの説明ということでよろしいですか。よろしく願いいたします。

教育部長) 報告第1号 教育長の事務代理に係る報告について。

令和3年度葉山町教育予算(一般会計補正予算(第8号))について、教育委員会の事務を臨時に代理したことについて報告します。

(別紙)

令和4年2月16日提出

葉山町教育委員会
教育長 稲垣一郎

提案理由

新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止となったことに伴い、第1回議会定例会に補正予算(第8号)を計上したため、葉山町教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第2項の規定により、教育委員会の事務を臨時に代理したので、同規則同条第3項の規定により報告するものです。

内容につきましては、先ほどもお話が出ましたとおり、両中学校の修学旅行につきまして、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったことから、事業者が生徒分に対するキャンセル料を負担するものでございます。

以上です。

教育長) ありがとうございます。これより質疑を行います。質疑等ございますでしょうか。

では、ご質疑ないということなので、これにて終結をさせていただきます。

それでは、報告第1号を承認することにご異議はございませんか。

委員全員) 異議なし。

教育長) ご異議なしと認めます。

以上、報告第1号「教育長の事務代理に係る報告について」は、原案のとおり承認されました。

(各課からの報告)

教育長) 日程第4「各課からの報告」に入ります。

教育総務課、お願いいたします。

教育総務課長) 予定価格が1件1,000万円を超える工事の進捗についてご報告いたします。

対象は1件です。葉山中学校の体育館の防水工事を実施しております。こちらにつきましては本年1月31日に工事を竣工しております。

以上です。

教育長) ありがとうございます。これについては大丈夫ですかね。

では、続きまして、学校教育課、説明をお願いいたします。よろしく願い

たします。

学校教育課指導主事) 私からは、令和3年度全国学力・学習状況調査、葉山町の結果についてご報告させていただきます。資料をご覧ください。

まずは小学校に関する調査結果の概要についてです。

まず、調査について、国語の調査結果は全国・県をやや下回る正答率でありました。また、記述式の問題、書くこと、また読むことの問題、目的を意識して中心となる語や文章を見つけて要約する、漢字を文の中で正しく使うという点について課題があると考えます。

算数の調査結果については、全国・県のほぼ同程度の正答率と考えられます。ただ、算数においても、記述式の回答を求められる問題については課題があると考えます。

続いて、中学校の調査結果についてです。

全体の結果としましては、国語・数学の調査結果ともに、中学校においては全国・県と比較しても同程度の正答率と考えられます。国語は、特に書く能力という評価の観点では、全国・県に比べて正答率が上回っている状況でありました。ただ、数学においては、数学的な見方や考え方についてのところに課題があると考えられます。

続いて、児童質問紙についてのお話です。まず、教科に関わる内容についてですけれども、道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますかというところで、小・中学校ともに高い数値となっております。このことは「特別の教科 道徳」となって、小・中学校ともに道徳の授業において、考え、議論する道徳を意識した道徳の授業づくりを進めている成果が表れているのではないかと考えます。

続いて、児童質問紙の学びに向かう力に関わる内容についてです。小・中学校ともに葉山町の児童・生徒は自己肯定感、規範意識、思いやり、そして学習意欲、社会への参加意欲というものは高いことが読み取れます。また、「はじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」とか、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」というところでも、葉山町の子どもたちも「そう思う」というところでとても高い数値を示してはいるんですけども、ただ、少数であってもそのことについて「そう思う」と答えていない児童・生徒がいるということも、しっかり心にとどめて教育活動に取り組んでいけるように、引き続き人権教育の推進等、働きかけていきたいと思っております。

以上です。

教 育 長) それでは、学状についての報告がありました。全般見ていただいて、これ結構実は面白いので、パーセンテージも含めて見ていただいたらと思いますけども、ご感想でも結構です、ございませんでしょうか。いかがでしょうか。どうぞ、小

峰委員。

小峰委員) まずですね、最初に調査の解釈等に関する注意事項のところにも、年度により問題の質が異なるためということがありますが、やっぱり令和3年度にこの学力・学習状況調査を受けた子どもたちは、かなりコロナの関連で、いわゆる直接的な指導を受ける機会を失われていた時間が長かったと思うんですが、文科省はその辺りを考慮したような問題の内容、いわゆる前年度に比べて、その辺が分かるような問題の内容だったかどうか。それとも、そんなに…質として変わっていなかったのかどうかということがまず1点です。

それから2点目は、小学校の学びに向かう力に關わる内容についてのところの、7番目。国語の回答時間は十分でしたかというところの数字がかなり低いですよ。子どもが違うから何とも言えないんですけど、毎年国語に関しては回答時間が十分じゃないという答えが、全国や県に比べて大変低いですね。そのことについて、考察のところでは毎年検証が必要だということ、いわゆる瞬時に情報を得て、それに対しての、自分なりの解釈というのに遅れがあるとかというようなことも書かれています。検証は必要だというお答え…というか、解釈が書いてあるんですけども、もちろん教育委員会がそこを検証するわけにはいかないんで、各学校がそれを検証していくことになると思うんですが、その辺の各学校の捉え方を指導主事の方々はどのように捉えていらっしゃるのかなということ、その今、2点を質問させていただきたいと思います。

教 育 長) ありがとうございます。2点ありましたが、文科の話のところはこちらから答えてしまいますが。今回残念ながら、コロナ関連のところを考慮した形での出題・作問をしてないですね。ですので、あくまでも毎年毎年のところの部分で彼らがそれなりに考えて、こういうふうに作っているというのが実態のようです。それから、比較検証についてのところも、そういう意味でなかなかしづらいところもあるかもしれません。学状については、文科自身もこのままの状況のことを続けていくことに意味があるのかというところの検証も始めているというところは伺っているところです。

2つ目のほうですが、これ学校教育課のほう、いかがでしょうか。学びのところの、学びに向かう力に關わる内容の項番 17 ですね。国語の回答時間が足りなかった。これに関するところについてですけども、学校の捉え方ですとか、学校教育課としてのその指導関係のところでは何かお考えがあればお聞かせください。大黒指導主事、どうぞ。

学校教育課指導主事) 学校としても分析の中でここは問題として捉えています。また、結果の中にもありましたように、記述式の問題に対して無答率が多かったというところも関連していると思われ、自分の考えを言葉や文章で表現することに課題があると考えられます。各学校の分析の中にも書く力に課題があり、来年度の教育課程の中で、

また学校によっては、研究の一つのテーマとして取り上げて指導していきたいということについての報告がありました。

教 育 長) いかがですか。

小 峰 委 員) というのが毎年のお答えだったと思うんですが、その辺の各学校の努力というのがどれほどなのかが知りたいと思います。文章を読みとることの困難さというのか、無答が特に多いということ、無答率、無回答率が高いということについて、学校はどの程度対策を取ろうとしているのか…この学状だけが見直しの機会ではないですが、でも、これは客観的に見直してできる機会なので、その辺の取組がどうなのかなということを知りたいと思います。毎年同じように課題だと言っているながら、その辺が、何か改善されていく方向がなかなか示されないというか、私なんかには理解…理解というか、受け止められないということがあります。それこそそれが問題かなというのがありました。

ちょっと外れてしまうんですけど、先ほど教育長から、指導と支援の違いについてお話があって、指導ではなくて支援という気持ちを先生方が持っていただくというお話があったんですが、私個人の考えでは、やっぱり指導はあるべきだと思うんですよ。というか、支援は子どもが自分自身で課題を持って、これを解決していきたいという、子どもの学びが動き出したところから支援は始まるんであって、やっぱり子どもがどう自分の問題を見つけ出すかまでは指導が必要だと思います、私などは先生方に「仕掛けときっかけ」という言葉を使って考えてもらってきました。まず、子どもに学んで欲しいことに目を向けさせる仕掛けは作らなきゃいけない。それは指導に当たると思うんですね。それから、こういうきっかけで子どもが動き出すぞという、そこをつかまえさせることも指導だと思います。学校を参観させていただき、授業にそこがないがためにずっと指導しなければいけない。子どもが問題を見つけるところまでいかないで、先生も問題を与え、それをさせるがために、ずっと指導をしなければいけないというところが、さっき教育長がおっしゃった支援という姿勢が先生方に見られない原因だと思うんです。

だから、今回いずれも無回答というのは、子どもたちが自分で何か問題を見つけ出す、そういう学習の姿勢がなかなか身につかないということにも関わるのかなと思いましたので、何か、毎年ここが低いということに対して、学校は課題だという分析を出すのではなくて、それについて何か、さっき教育長がおっしゃったように、支援という、子どもがまず問題を見つけて、それに向かう姿勢をつくることから始めようとか、何か具体的なことを学校が考えるべきじゃないかなと思いましたので伺いました。

すみません、私の、自分の持論みたいなものを話してしまったんですけども、何とかこの辺は学校への取組の中の重要事項に加えていただきたいなと思いまし

た。

教 育 長) ありがとうございます。すみません、こちらの舌足らずで、小峰先生がおっしゃっているとおりのことです。よろしくお願いしますと思います。

小 峰 委 員) すみません、余計なことを。

教 育 長) いえ、とんでもないです。先ほどおっしゃっていただいたところの部分で、これも4月に来た時点で、昨年の学状の結果、その前の年を見たときに、どうなるかなと思って今年見てたんですが、実はほとんど、いろんなパーセンテージ変わってないんですよ。国語の正答率も変わってないですし、おっしゃるとおり、国語の回答時間が足りないというのも、去年もおととしもずっと同じなんです。これ、恐らくは…ただ、もう一つ面白いのは、中学校に上がっていくと、中学校のところで、「回答時間は十分でしたか」が、突然 73.1%に上がるんですね。国語の正答率もぐんと上がるんです。これは葉山の特徴的なところで、ほかの町村ではなかなか見られないんですよ。小学校のところと中学校のところで、ここまで違うものが出てくるというのは不思議なところの部分があって、かといって、じゃあ、これでよいのかというと、小学校のところで、より、簡単に言うと、これ作業的な部分についての国語でなく、作業としての部分についての教育が多分されてるんですよ。ただし、残念ながら、昨今言われている読解力に近いもの、さらに読解をしながら違うものも含めて、いろんなものを頭の中で統合した中で回答していかなきゃならないようなものについては、多分授業の中のところでの取組がうまくまだでき切っていないんでしょうね。ですので、違う問題を、簡単に言うと学状で子どもたちに出されているので、時間全然足りないんです、多分。今年の共通テスト、大学共通テストの数学が突然平均点があくんと下がったのは、全くこれと同じ要因だと思ってます。

ですので、これは簡単に言うと、教授をする、授業をする立場の教員たちがこの学状の結果を、僕は校長が解説をしてないと思ってるんです。ですから、これ解説をぜひさせないといけません。何でこうなんですかと言ったら、教員はやっとそこに気がつくと思いますよ。毎年同じですねというお話を、ご指摘をいただいたわけですから、これについてはしっかりと落とし込んでいって、少しずつ何かをさせていく。それは学校の現場が考えることですから、ここをしっかりと考えていくべきだろうなというふうにお話を伺いながら思っていたところです。

データについては、ほかのところでも面白いところがたくさんあるなど、実は僕は個人的には思っているところいっぱいあるんですが、まず小峰先生にお話をいただいたので。もし下位委員や水沢委員も同じ、何か感想的なところであれば。下位委員、お願いします。

下 位 委 員) 一部、一問一答させてください。

小学校の学校の授業時間以外に1日当たりどれぐらいの時間読書をしますか、これ毎回ある質問だと思うんですけども、いつも葉山は高いと思います。課題及び改善点というところにその内容が書いてあるんですけども、これは子どもたち、図書館の活動、PTAの活動等があり、子どもたちに本を読ませようという良い圧力みたいなものが葉山にはあるので、それでうまくいってるんじゃないかなと思います。これが中学校にいくと突然 23.5%、全国平均 28.9%に対して2平均以下に下がるというのも毎回の傾向です。中学校も朝読書みたいなものがありますよね。中学生になるとユーチューブが楽しかったりとか、SNSが楽しかったりとか、そういった方向にってしまうのかもしれませんが。中学生でも読書はぜひ続けていただきたいと思うので、何かしらの施策をしていきたいなと思います。それが1点です。

そして、今度小学校のICTを活用した学習状況についての③番に、5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたかというところなんですけど、これはGIGAスクール端末が入る前にどれだけ使っていたかということです。これが全国40.1に対して、葉山町17.9なので、相当やってなかったんだなということに気づきました。

もう一つ、携帯電話、スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますかというのが、全国70.1に対して、葉山は65.8で、守っていない子どもが割と多いということだと思います。これも、課題及び改善点のところに、家庭と連携して使い方の指導をしていく必要があるというふうに書いてありますが、おっしゃるとおりなのですが、これは家庭の協力がないと実現できることではないので、何かしらの施策、具体的な施策が欲しいなというふうに思いました。

これに関連してなんですけど、新型コロナウイルス感染症による児童の学習への影響についてというところがありまして、休校になったときに自宅で勉強に不安を感じるかどうかとか、計画的に学習を続けることができたかどうかとかというところなんです。葉山の保護者から聞いた話なんですけども、このタブレットがあったから、学級閉鎖とか休校でもオンライン授業…このオンライン授業で何を指しているのかは要調査なんですけども、受けられて非常によかったという話がありました。ただ、同じ小学校に通う別の保護者からは、うちのクラスは自宅ではほとんど活用されてません、という方もいらっしゃったので、恐らくクラスによって差があるのかなというふうに感じました。

逆にすね、私立の中学校に行かれています保護者の方からの話を伺ったのですが、タブレットがあることによって、学校側が安易に休校にするようになったというように感じているということでした。雪がここ何回か降りましたが、今週の月曜日も雪の予報で、結局積もるほどは降らずにバスも電車も普通どおりだったんで

すけども、早々に休校に決めてしまって、タブレットで自宅学習となったそうなんです。どこかの大学では、やはり自宅のタブレットによる授業で、幾つもの講義を同時に見て、単位を取ろうという不正があったというニュースもありました。

オンライン授業は便利ですし、このコロナ禍の中には必要なことなのでしょうけど、使い方を間違えると、子どもたちのほうが多分そういうところは頭働くので、うまい具合に授業の抜け道をつくったりとかですね、ということもあるんじゃないかなと思います。その辺も考えていかなきゃいけないですし、最初に申し上げた、同じ学校の中でもタブレットがあつてよかったというご家庭と、全然使ってなかったというご家庭があるので、そういった調査がもしできるのであれば、先生方にどのぐらい使ってるんですかとかという意識調査みたいのをしたほうがいいんじゃないかなと思いました。

そして、今度中学校のほうなんですけども、中学校の教科に関わる内容についての中で、これまで学校の授業やそのための学習以外で日常的に英語を使う機会が十分にありましたか、という設問がありました。全国 34.1%に対して葉山は 40.1%なんですけど、中学生が日常的に英語を使うことってあるんですかね。例えば、葉山ならではの、外国人のお友達が多いとか、ちょっと事情は分からないんですけど、オリンピックでイギリスチームが滞在されていたときに、語学ボランティアの方から聞いたんですが葉山の子どもは外国人の方と接する機会が多い、なんてお話を伺ったおっしゃったこともあったので、もしかするとそういうところに出たのかもしれない。

そして、やはり中学校のICTを活用した学習状況についてなんですけど、この中で、あなたは学校でコンピューターなどのICT機器をほかの友達と意見交換をしたり、調べたりするために、どの程度使用していますかというところの回答を、「ほぼ毎日」と、「週に1日以上」と回答した割合の合計というふうにしてデータ取っていただいているみたいなんですけど、「ほぼ毎日」と「週に1日以上」って結構差があると思います。それ以外の設問というのが、回答ってどんなものがあつたんでしょうか？

最後です。新型コロナウイルス感染症による生徒の学習への影響についてという質問の中に、新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたかというところが、葉山 48.8%、全国 40.5%なので、葉山は割と規則正しい生活が送れていたと思うんですが、それにしても、2人に1人以上は規則正しくなかったと答えています。この規則正しい生活が何を意味するのかは正確に認識していないんですが、例えば朝決まった時間に起きられないとか、夜遅くまで起きてるとかということなのであれば、今後もしまた全体的に休校とかがあるようであれば、例えばオンラインの学活とか、朝の会とか、そういったものを必ず全てのクラスでやっていただくことによって、せめ

て起きる時間は守れるかと思えます。なので、その辺はちょっと頭の中に入れておいていただけるとありがたいなというふうに思えます。

すみません、長くなってしまいましたが、ほとんど意見でしたが、以上でございます。

教 育 長) ありがとうございます。中学校のICTですけども、ほぼ毎日、週に1回以上以外の回答例というのは、今分かりますか。

学校教育課長) ちょっとお時間ください。

教 育 長) 後ほどちょっとご報告するというところでいいでしょうかね。

下 位 委 員) はい、ありがとうございます。

教 育 長) それから、最後にお話があった、規則正しくない生活になってしまっているという話ですが、恐らく小学校・中学校合わせて、休校にせざるを得なかった時期については、オンラインホームルームを必須でやってるはずなんです。ですので、逆に言うと、教科による、あるいは小学校においては時間の全てをオンラインにすることは効果的ではないという話をしていますので、時間のスタートにみんなに顔を合わせて、今日やることを確認をして、そしてそのまま一旦お放しなさいと。最後のところでもう一回時間のところでおいでという話に下さいねという話をしていますが、おっしゃられるとおりに、なかなかそれが確実にできているかどうかというところの検証まではできていませんので、私の一つの考え方としてのところは、さらに周知をさせていただいて、ここのパーセンテージがね、このような状況というのは決していいと思いませんので、今後のところでどうしていくのかということを考えたいと思います。

それから、その前にありました、私学さんがどう考えているかというのは、学校によっても恐らく違うと思えますけれども、県立高校を含め、神奈川県内のところの物の考え方は、実は県立高校は、葉山が陽性率が上がる前に、高校生、非常に罹患数が増えた時期があります。そのときは、保健所がまだ機能していたレベルのところがあったので、保健所が、いわゆる学校の中の濃厚接触者を判定する間は学校全部を止めてました。ですから、場合によっては1週間程度平然と止まっている学校が相当数あったというのが事実です。ただ、今はもう保健所自体がなかなか回らないという実態も県の教育委員会理解していて、これは小・中学校も同じだろうと。ついては、できるだけ学校は継続して、休校等についてのところは最終手段であると。段階的に考えるならば、もし止めるにしても校医さんと相談をしていただいて、校医さんの判断の中で学級を止めましょう、あるいは学年を止めましょう、最悪の場合は学校を止めましょうというところの段階をきちっと追った上で、臨機応変に、できるだけ継続的に止めない形を取りたい。ただし、どうしても止めなければならないときには、しっかりと誰も取り残さない形ということで、オンライン授業をしっかりとやりなさいねという指令…指導

が教育委員会のほうに下りていますので、葉山としては基本的にもともと県が考えていたとおりのことをやっていますので、公立についてはそのようなことはないと思いますけれども、なかなか私学さんは交通の関係でも広範囲ですからね。ですから、そのところで一定の公立のところの小・中学校と同一の考え方が取れるかというところ、なかなか難しいところもあるのかもというところがあるのかも分かりません。

羽生指導主事、どうぞ。

学校教育課指導主事) すみません、先ほどいただいたICTを活用した学習状況についての②、③の設問ともに回答の選択肢は4つありまして、「ほぼ毎日」「週1回以上」、そして、「月1回以上」「月1回未満」の4択から選んでいる形となります。以上です。

下位委員) 分かりました。ありがとうございます。

教育長) よろしいですか。

ありがとうございます。ほかに何かございますでしょうか。水沢委員、お願いいたします。

水沢委員) この調査結果概要で小学校の部分ですけれども、すごく素朴な疑問があります。国語がなぜ葉山町低いのか、という疑問です。国語のその下のほうの詳細を見ると、ほかの質問の中、いろんな質問の中で、「好きか」というふうに聞かれているのが極端に低いですね。これ、何か分析のしようがあるのかなのか。そういう小学生に対して好きか嫌いかって聞く2択だと、デリケートなところがあるかなって正直思います。この数字がなぜ極端に低いのか、教えてください。

教育長) もし分かればお願いします。これまでのところでの分析、昨年度も含めてそうだと思いますけれども、何か学校教育課としては一定の見解をお持ちになりますか。

学校教育課長) おっしゃるとおり、デリケートなところも含んでいるかなというふうには思います。まず、小学生は漢字に関する読み書きの正答率が若干低めなところがあります。書くことに対する苦手意識がある中で、小学校の国語の時間数は週の中で多い現状があります。そういったところが積み重なっていくことで、苦手意識が強くなっているように捉えています。

ただ、これもまた葉山の特徴なのですが、中学校になると、子どもたちが自分の意見を表現し合ったり、お互いの意見を聞き合ったりというような積み重ねの取組を通して、だんだんそれが克服されていく傾向があると思います。正直、経年的な結果を分析できているわけじゃありませんので、単発的な見方になってしまいますが、そのような傾向は結果からも読み取れます。結果分析については、単年度の見立てではなく経年変化を行って行くこと、積み重ねの学習がどのようにつながっていくのかというところを分析していく方向に変更していくことが今

後の課題だと考えております。

すみません、答えになっておらず申し訳ありません。

水 沢 委 員) 実はそういう評価、アンケート取っていくというのは、先ほどのね、9年間という小・中一貫になったときに、まさにその部分すごく意識して考えていかないといけないのかなと思いますね。

あと、こういう、やっぱり、ちょっとどうしても小学校6年で、何かざっくりしてしまうという。そうすると現実がよく分からないという。もうちょっとそれが分かるような調査方法。これは葉山町というよりも、全国共通のやり方なんですよね。ですから、それにのっとるしかないけれども、何か提案を含めて考えていくという、うちとしても主体的であったっていいのではないかなと思いました。以上です。

教 育 長) 私も感想を申し上げたように、このところは非常に面白いデータだと最初から思っていたんですけど、その下のところのパーセンテージを見ると、決して低くはないわけです。国語の項目の中でも、ほかの部分でむちゃくちゃ低いというわけではない。ところが、好き嫌いに関してだけ、好きではないと平然と言ってくるということは、子どもの感覚からいくと、ここにたどり着くのは、恐らく内容論から言って考えられるのは何個かしかなくて、一つは評価です。評価がよくないですね、恐らく。個人個人に対しての評価がよくない。じゃあ、何でよくないのかということですけども、下の項目の中で自己表現等々については比較的楽しくやっているんですよ。ところが、テストされるとテストの点が出ないんですよ。ですので、結果的に点数としては、絶対評価として出ている可能性がありますので、その絶対評価の中で何に重きが置かれて単元別の評価がされているかというところをもう一回整理しなきゃいけないですね。

例えば、課長が申し上げたとおり、漢字のところの正答率が低いという話がありました。漢字についても、これは先々の話で、それでいいのかという話はまた別に置いていただいて、漢字、書ける書けない、読める読めないが、これから先の社会通念上の中で、小学校で本当に必要項目としてすごく重要な位置を占めていくかどうかは、ちょっと分からない状況に、今の、これからの社会の中ではなっていくと思います。そういう中で、漢字書けた書けないというところの部分での好き嫌い度というのが、もし仮に出ているとするならば、やはり国語は本線どこなのかというと、最終的には読解力ですから、読解力と自己表現力の、自己表現好きだと言って以上は、本来は教科的に好きになっただけかなきゃいけない。もしかすると、これ国語と算数なのでこういう結果が出ちゃってますが、社会を仮に同じようなことの観測をしたときに、社会も嫌いだというふうに出るのか、社会は好きだというふうに出るのかというのが、非常にもしかしたら面白いところかもしれないですね。

僕の感覚でいくと、社会を好きだと言ってるんだと思うんです、葉山の子どもたちは。ですから、そうやっていくと、国語の特定の何かについて、彼ら一般的に苦手意識をお持ちになっているような形での評価及び授業の中の重き、ウエートの置き方があるんだろうなとしかやっぱり考えられないです。一つは、この前、南郷中の校長が、皆さんにもお話をさせていただいたとおりですが、中学校に行くと、国語教育に関して非常に生徒がアクティブに動くことを積極的に授業でやっています。そういう中でいくと、中学校になりますと好き嫌いも相当全国レベルに近いところに入りますし、現実的なところでの正答率も相当上がります。ですので、そこのところの物の考え方というのはしっかりと検証しながら、委員がおっしゃるようなところに、一つね、視点を明確にしながら何をしていくのかということをしていくと、葉山の国語という教科のレベルでも、また違う物の考え方で、よりいい結果が出ていく形になろうかなというふうに、少し個人的には思っています。

以上、3人からお話いただきましたが、この学状については、すぐにはなくならないと思いますので、また少しね、各学校ともきちっと分析をしてやっていくということをしていながらですね、よりいい形での授業改善につながるようにしていければなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

各課からの報告ですが、ほかにございますでしょうか。

学校教育課長) 来月、3月9日に中学校の卒業式、3月18日に小学校の卒業式が執り行われます。今のところ、来賓の方の参加はなしという形で考えておりますので、委員の皆様もご理解よろしくお願ひできればと思ひます。

また、3月31日の辞令交付式及び辞令伝達式、4月1日の辞令交付式につきましても縮小する形で検討しております。また詳細が決まったところで、委員の皆様にご連絡をいたしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

教育長) よろしいでしょうか。ほかに各課からよろしいですか。
それでは、これにて各課からの報告を終了いたします。

(その他)

教育長) 続きまして、日程第5「その他」について、何かございますでしょうか。よろしいですか。

ほかになければ、主な行事予定について、教育部長のほうからお知らせをします。教育部長、よろしくお願ひします。

教育部長) 3月1日、定例校長会議。
9日、中学校卒業式。
17日まで議会第1回定例会。

18日、小学校卒業式。

23日、定例教育委員会の予定。

28日、学校教育シンポジウム。

31日、辞令交付式及び辞令伝達式。

4月1日、辞令交付式。

3月23日の定例教育委員会の予定はよろしいでしょうか。

水沢委員) 16日と思っていたこともあって、この日だとわたしは欠席にならざるを得ません。もし、例えばですけれども、24日の木曜日であれば調整可能です。

教育長) じゃあ、後ほど調整させていただくということによろしいですかね。

水沢委員) 翌日であれば私、出席できますので。申し訳ありません。

教育長) 定例教育委員会についての日程については後ほど調整させていただくということで、よろしく願いいたします。

(閉会宣言)

教育長) それでは、以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしましたので、これにて閉会といたします。

時刻は11時40分でございます。ありがとうございました。